

## 発 刊 の 辞

日本金属学会は大戦後10年を経た1956年に新制金属講座製錬篇を発刊した。当時は戦時中の空白と戦後の混乱のため、金属・冶金関係のまとまった教科書類はほとんどない状況であった。そのため、この講座本は多くの大学で教科書として、また企業技術者の手引書として歓迎され、広く利用された。当時企画された編集委員および乏しい資料を集めて要領よく執筆された著者の方々に、深い敬意と感謝を表すものである。

この講座本は1964年に改訂されたが、その後の学問的発展やわが国工業技術の目ざましい発展に伴い、1979年に新講座本企画の一つとして全面的な大改正が行われ、「鉄鋼製錬」、「非鉄金属製錬」、「製錬工学」、「金属物理化学」の4巻からなる講座・現代の金属学製錬編として刊行された。本編も大好評を博して、大学における金属系学科の教科書として、また企業技術者の生涯学習の書として、広く利用されてきた。

しかし、最近における科学技術の発展と産業構造の変化には著しいものがあり、先端技術分野、他分野との融合技術、高純度化、リサイクル、環境問題などが注目されるようになり、従来型の金属・冶金関係の概念ではこれらを十分覆いきれない状況になってきた。また、「知識の量よりも創造的な能力の開発」を目標にするようになってきた。このような状況に対処するため、あまり詳細な内容は省略し、基礎事項を中心にして、その応用例を示し、各巻2単位(2時間×15回)程度で、先端技術も多少は紹介できる「金属化学入門シリーズ」を出版することとした。本シリーズは第1巻「金属物理化学」、第2巻「鉄鋼製錬」、第3巻「金属製錬工学」、第4巻「金属熱工学」、第5巻「金属反応工学」、第6巻「材料電気化学」、第7巻「材料特殊製造法」の7冊で構成され、高等学校卒業程度以上の学力があれば、十分理解できることを目標とした。この新しいシリーズが、多くの金属技術者、研究者および学生にとって、よい指導書となることを信じている。

著者ならびに編集委員各位のご尽力に対して、深甚の謝意を表すものである。

1996年4月

社団法人 日 本 金 属 学 会  
会 長 及 川 洪

### 追 記

その後、本会において計画促進のための出版計画全般の見直しが行われた結果、1996年1月に本会より発行した講座・現代の金属学製錬編第3巻「製錬工学」が類書として利用でき、また洋書ではあるが適切な参考書が入手できるので、本シリーズ第4巻「金属熱工学」と第5巻「金属反応工学」は出版中止とすることになった。なお、「材料電気化学」は時代の進歩に応じて「材料電子化学」とした。